

11009その他の鉄鋼業における死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	起因物(小)	労働者規模
1	2017	12	7~8	借り上げ場所にて、車を積み込むために10tトラックの荷台上上がったところ、荷台の表面が少し湿っていたのか、履いていた安全靴が滑って転倒しそうになったため、そのまま荷台上で転倒すれば荷台の縁（荷台のアオリは下へ下ろしていた）で脇腹や背中を打つか、もしくは荷台から転落して地面へ落下するかもしれないと思い、転倒する前に自らジャンプして荷台（高さ約1m）から地面（コンクリート）へ着地したところ、両足の踵を負傷した。	53	3	221	50 ～ 99
2	2017	12	11~12	被災者がスクラップの解体作業を行っていた付近で、別の作業者が重機を用いてスクラップの移動を行っていた。状況から見て、スクラップを移動させるため重機を旋回させた際に、遠心力でスクラップが飛んでしまい、被災者に当たったと思われる。作業者は、柱で被災者を認識できていなかった。	48	4	145	10 ～ 29
3	2017	12	0~1	当社の家電ヤード内で、トラック（10tアオリ車）から荷物を降ろそうと、アオリを開けた際、アオリが体に当たり、そのまま地面に倒れ、地面で頭を打ち負傷した。	26	6	221	30 ～ 49
4	2017	11	13~14	事業場内荷降ろし場において、トラックの積み込み作業の段取り中、トラックの荷台へ登り、アオリ部分に足をかけて登りきった時に、右足を滑らせて荷台内部へ左足から落下した。	40	1	221	10 ～ 29
			9~	当社工場内に於いて片付け作業をしようと高さ60cmの作業台上				10

5	2017	10	10	にあるH鋼を手前にずらした際、被災者の安全靴先端に落下し左足親指を受傷した。	25	4	521	～ 29
6	2017	10	16～ 17	事務所第二工場トラックヤードで積込作業中のトラック荷台の上で4×8製品を胴巻にて荷締する際、足跡がつかないように安全靴を脱ぎ、裸足で製品の上に乗り作業していたところ、となりの3×6製品の上においてあった締め機が左足親指の上に落ち骨折した。	46	4	363	～ 29
7	2017	9	9～ 10	本社工場にてトラックトレー台車上で品物を載せ、天井クレーンにワイヤーフックにかける作業中、その作業に気をとられ、足元を見ていなく、体のバランスを崩して下に落ち、手を地面についた際に負傷した。	43	1	221	10 ～ 29
8	2017	9	11～ 12	本社工場でVベルトの亀裂発熱を点検中、目を逸らした際誤ってモータから繋がっているVベルトとVプーリーとの間に、右手指先を挟んでしまった。	42	7	159	10 ～ 29
9	2017	9	13～ 14	製鉄所鋼管工場造管出側H床にて製品の結束、払い出し作業に従事、結束の不揃いを発見した為、修正の為結束された鋼管（8本束）を架台に移動し降した際に1本の鋼管の端部（南側）が落下、修正しようとしてきた際に、鋼の北側が落下し、右足を挟まれ負傷した。	32	4	418	300 ～ 499
10	2017	9	13～ 14	上記日時当社の工場にて、運転手の被災者が工場内を移動をしていた時、作業用のクレーンが通過している所に出てしまい、タイミング悪くクレーンのマグネットから落下した鉄くずが左足にあたってしまい負傷したものである。	55	4	521	1～ 9
11	2017	9	11～ 12	構内において、スクラップをレッカー車の荷台に載せる作業をしていた。その作業中、担当の被災労働者が担当者に対し、開始の合図を間違えてしまい、右手がワイヤーとスクラップとの間に挟まった状態で巻き上がり、薬指を骨折した。	34	7	212	10 ～ 29
				工場内B棟丸棒剪断プレスラインにて、丸棒送りモーターの交換				

12	2017	8	14～ 15	作業を手伝っていた。モーターとチェーンの動きをチェックするための試運転中に、モーターに無意識に手を近づけてしまい、装着していた皮手袋ごと巻き込まれた。その際に、右手の薬指を挟まれて負傷した。	34	7	224	10 ～ 29
13	2017	8	14～ 15	工場内にて、4mシャーリングで加工中、板押さえパッドが取れたので、機械を停止し取り付けたあと、寸動動作にて2～3回機械を動かし、取り付け確認を全員で見えていたときに、被災者が誤って右から1番目の板押さえに左手を差し出したため、板押さえにより左手中指が機械に挟まり受傷した。なお、そのときに軍手は着用していた。	24	7	156	50 ～ 99
14	2017	8	15～ 16	工場内の作業場で、切断された製品を枠から抜くため、その製品の上に細長い鋼材を片方だけ接地させ、他方をパワーマグネットで吊り上げ、その直下に鉄の当てものを置いた。パワーマグネットの電源を切って落下させ、当てものに激突させた。その衝撃で製品と枠を離そうとしたが、右手で当てものを少し動かしているときに、吊り上げていた鋼材がマグネットから外れて落下し、それと当てものに右手が挟まれ負傷した。	18	4	372	100 ～ 299
15	2017	8	8～9	本社工場内にて、レーザー加工機横の作業台で、切断した製品を片付ける作業中、作業台に昇ろうとして足を踏み外し、作業台の角で左胸を強打した。	36	3	391	30 ～ 49
16	2017	8	9～ 10	不審火災事故後の復旧作業中、シュレッダー機・本体前コンクリート製ピット内ドラム缶入破砕屑をシュレッダー室入口付近に移動すべく、2.5tホイスト式天井クレーンの操作用押ボタンスイッチBOXを両手に持った被害者は、クレーンを誘導ピットに突き出た点検歩廊に向けるべく、排風機用モーター架台脇鉄板製床に（コンクリート製作業床より20cm低い）、安全靴着用の左足を一步踏み出したとき、これを踏み外し、30cm下のコンクリート製床に体を右回転しつつ墜落した。その際、突き出た	37	1	416	1～ 9



24	2017	7	13~14	当社工場内銅ダライ置場横において、銅ダライの入った箱をリフトにて荷降ろししようとした際、フォークで箱を持ち上げた時に然程重たくないと感じたため、箱を一気に持ち上げバックさせたが、思いの外、箱が重く重みでリフトが前傾して後方部が宙に浮いた状態となり、後方部が地面に着地した際に背中を打ち、負傷した。	57	3	222	1~ 9
25	2017	7	12~13	被災者は取鍋補修の作業をしていた所、体調が悪くなりお昼に退社した。その後、熱中症と診断されまた、腎臓の数値が高いということで入院となった。当日の職場の環境は TA:39.5°C RH:34.2% WBGT:31.6°C（夕方測定）であった。	52	11	715	100 ~ 299
26	2017	7	16~17	被災者は注湯後の湯口カップと桁間の湯浸入防止板の回収の作業をしており、午前、昼、午後と水分を補給していた。大汗をかいたが、もう少しということで作業を継続していた。夕方気分が悪くなり氷水等で処理をしたが痺れが治まらず救急搬送された。当時の職場環境はTA:42.2°C RH:36.7% WBGT:34.2°C（夜測定）であった。	40	11	715	100 ~ 299
27	2017	7	13~14	工場内でレール割り作業（レールにガスバーナーで切れ目を入れて、大ハンマーで叩き割る作業）をしていたところ、大ハンマーがレールの端に当たり跳ね返ったレールが左足を直撃した。（レールは約1mで安全靴の柔らかい部分を直撃した。）	58	4	364	1~ 9
28	2017	6	15~ 16	工場内で機械を解体する際、ギアが回転するため鉄棒で固定していた。鉄棒が外れないように、左足で押さえながら解体作業をしていた。その作業中に、鉄棒から足が滑り捻挫した。	44	19	921	10 ~ 29
29	2017	6	20~ 21	工場のベルトコンベアー試運転時、裏ベルトに異物があるのを発見したため、安全柵を外して異物を取り除こうとした際に、ベルトに接触して右手を挟まれた。不具合発生のため運転を停止して処置を行った後、試運転を実施した時のものである。	22	7	224	50 ~ 99
				検査工場芯出し定盤上で、鋳鋼製品（約3t）をクレーンで90度				

30	2017	6	11～ 12	立てる作業を行っていて、製品が起き上がった瞬間、製品が枕木からずり落ち、バランスを崩すと同時に玉掛けチェーンも外れてしまい、倒れてきた製品に右足指を挟まれた。	27	6	612	100 ～ 299
31	2017	6	9～ 10	取引先敷地内においての被災である。スクラップ積み込み作業中、機械のスクラップを同僚が運転するユニック車で掴み損ね、スクラップが揺れて転倒し、機械スクラップ付近で仕分け作業中の被災者の右足甲の上に触れ、打撲した。	42	6	212	100 ～ 299
32	2017	6	14～ 15	当社工場にて、板の厚みを測る作業中、60cm程に積み上げた鋼板の上に右足を掛けた際、積み上げた鋼板のバランスが悪かった為に鋼板が崩れてしまい、右足くるぶし部分を裂傷し、7針縫ったものである。	59	5	521	1～ 9
33	2017	5	10～ 11	熱処理工場建屋南のテントハウス前で、ステム巻き亜鉛メッキ線を吊ったバッテリー式リーチ（2.1t）をバック運転した時、停車していたフォークリフトのフォーク（一本角）先端に左足膝裏下が突き当たり負傷した。	66	6	222	100 ～ 299
34	2017	5	10～ 11	1700スリッターでコイルをアンコイラードラムに挿入する作業をコイル側面で行っていた際に、コイルをコイルカーに乗せた状態でアンコイラードラムとの高さ調整をしている際に、高さ調整が出来ていない状態でコイルカーを前進させた為、コイル側面がアンコイラードラムの軸に当たり、コイルが被災者の方に転倒し胸を強打した。	19	4	521	50 ～ 99
35	2017	5	9～ 10	事業場工場内において、シリンダー部品の穴明け作業中、シリンダー部品片面に500トンプレスで押し込んだ穴開け用ポンチ（円筒形：高さ約200mm、重さ約20kg、底面径約160mm・上面径約120mm）を一旦抜くために、シリンダー部品を同僚従業員がマニピュレーターで挟んで裏返ししたところ、ポンチが抜けてテーブル（高さ約500mm）に当たった後、被災者の左足に落下	47	4	521	10 ～ 29

				した。				
36	2017	5	5~6	次に処理する材料（2段積の上段）に添付してある管理札に誤りがある事に気付き、管理札を付け替えようとしたが材料が既に炉の手前にあった為、脚立を利用した。一方の足を上段の底板に掛けたところ、残った足で脚立を蹴り飛ばしてしまい落下し、駆動チェーンのカバーに左脇腹をぶつけ受傷した。	38	1	371	100 ~ 299
37	2017	5	7~8	工場内スクラップシャー機械室にて、始業準備のため配電盤操作を終了し、階段（7段）を降りようとした際、足元が滑り、階段を滑り落ちてしまい脇腹を強打した。痛みがあるが我慢して仕事を続けたところ、痛みが増して我慢できなくなった。	37	1	413	10 ~ 29
38	2017	5	9~10	会社第三作業場で、粉碎・破砕用ドラムローラー部にて指を挟まれ、右示指・中指・環指挫滅創を負った。	48	7	162	10 ~ 29
39	2017	4	11~12	納品先で従業員と二人で荷物を降ろすときに、相手方が手を滑らして品物が自分に跳ねかえり、それを避けようとして転倒した時に足が捻れ、左足くるぶしから踵にかけて腫れ、内出血が続く状態となった。	51	2	521	1~ 9
40	2017	4	8~9	プレス機の送り台が機械から出てきたとき、ゴミがある事に気が付き、送り台の下に足を入れて取りはらおうとした。トラテープの内側で送り台が動いていたときに右足を踏み入れてしまい、送り台に当たり、送り台の力で押し戻され、手前の鉄板との間に挟まれた。	28	7	169	30 ~ 49
41	2017	3	3~4	スリット加工にて、母材のTOPから約1mの位置を2名で持ち上げ、テンションリールの上部へ誘導していたとき、1名は母材の先端がテンションリールにあたると同時に手を放したが、もう1名は手を放すのが遅れ、製品とスロープの間に右手中指を挟まれ被災した。	19	7	521	50 ~ 99
				トレーサー4号機にて切断した130t×500×652の製品を6.7kgの				30

42	2017	3	15~16	大ハンマーで叩いて落とす作業中、振り上げた際に柵が折れ、大ハンマーのヘッド部が首に当たった。	32	4	364	~ 49
43	2017	3	11~12	鉄骨材料を工場内にて積込時、荷台で材料を手で移動した際に腰に激痛がはしり、その後、痛みがあったが無理をして荷卸しも行った。	37	19	921	1~ 9
44	2017	3	17~18	会社敷地内の駐車場で、帰庫した後、事務所に行こうと大型ダンプから降りようとした際、ドアノブに手をかけようとしたとき、ドアが完全に閉まっておらず、そのままの勢いで転落し、尻と後頭部を打ち、脳しんとうを起こした。	51	1	221	30 ~ 49
45	2017	2	16~17	当社倉庫内において被災者は片付作業中、足元の鉄板に躓き転倒した。その際ダンボールに右眼付近が当たり負傷した。	40	2	611	10 ~ 29
46	2017	2	16~17	第一工場のガス切り場で、酸素解体作業をしている時、円柱のタンク（高さ2m、重量500kg）を半分に切ったところ、切った部分が転がってぶつかってしまい、骨盤を座骨骨折した。	30	6	521	10 ~ 29
47	2017	2	15~16	当社、本社工場の酸洗・洗浄ラインにおいて、洗浄完了材（1.5mm×230mm×2900mm×30枚、130kg）の取り出し中に、回転集材機上の材料が搬送コンベアに引っ掛かって落下しそうになったため、手で押さえて落下を防止しようとしたが押さえきれず、左足上（安全靴着用）に落下し、その際に第1趾・第2趾を負傷した。再発防止策として、作業手順書の見直し、教育の徹底、設備改善を検討する。	49	4	224	30 ~ 49
48	2017	2	19~20	コンベアーに挟まれた材料を取ろうとして、コンベアーに右手中指が挟まれた。	41	7	224	10 ~ 29
				熱処理炉にて加熱炉に入る鋼材を調整する治具（矯正ローラー）の交換作業中、矯正ローラーが載った台車を移動させよ				

49	2017	2	20~21	うと一旦前に押したところ台車上のローラーが被災者側に寄ってきて台車の重心が偏り、台車が被災者の方へ倒れ右足首が台車の持ち手部分の下敷きとなり更に矯正ロールが太ももの上に乗っかり受傷した。 ※矯正ローラーの重量は約80kg~100kg程度。	36	4	159	100 ~ 299
50	2017	2	8~9	当社工場内のフライス機を使おうとして、盤上にあった鋳物をバリ取りしようとするとして手元に引き寄せたところ、足がもつれ体勢が崩れて鋳物が盤上から作業者の手前にずり落ち、左下腿に触れながら落下して受傷した。	52	4	521	10 ~ 29
51	2017	2	13~14	当社工場内にて、鉄筋を機械で切断していた時、鉄筋がはねた為、切断機と鉄筋の間に左手を挟まれ負傷したものである。	42	7	159	30 ~ 49
52	2017	2	12~13	当社工場内にて廃棄物を積んだトラックの荷台のシートを地上から剥がす作業中、外せなかったため荷の上に乗ってシートを剥がそうとした際、荷表面が平坦でない為バランスを崩して荷台から地上に腰から落ちた。	47	1	221	10 ~ 29
53	2017	2	18~19	会社内にてクレーンから鉄板（3000×500mm）を降ろす作業中、台木を揃えていたところ誤って左手人差し指を鉄板と台木の間にはさまれ負傷した。	26	7	211	1~ 9
54	2017	2	15~16	当社工場内に於いて、鉄骨加工作業中、一日中铁骨を持ち運んだため背中に痛みを感じ負傷した。当初は肉離れかと思っていたが、家に帰って動けなくなり、翌日は日曜だったので、その翌日に病院へ行き診察を受けた。	31	19	521	1~ 9
55	2017	1	8~9	コイニングプレス前でボルトを締めている時、スパナレンチにかましていたパイプが外れてしまい、その反動でよろめき、後ろに置いてあった鉄パレットに頭部を強打した。	72	19	364	10 ~ 29
				当社北ヤード板置場において、二人でヤード敷板の整備作業中、もう一人の従業員がガス切断作業をするので、火花に当た				100

56	2017	1	11~ 12	らないよう被災者が離れようと土留めにおいている鋼材（高さ約30cm）から降りたところ、右足を捻るように着いてしまい受傷した（安全靴着用）。	34	19	921	~ 299
57	2016	12	13~ 14	同僚と被災者の二人でコンプレッサーの移動中に、タイヤが設置面のくぼみにはまり、バールで持ち上げたがうまくいかず、フォークリフトのつめにチェーンをかけて少し持ち上げた。その時にチェーンがずれて、被災者の足がはさまれた。	49	7	169	1~ 9
58	2016	11	14~ 15	事務所で2階のロッカー室に荷物を取りに行き、階段を下りようとした時、足を滑らし右足を骨折した。	36	1	413	10 ~ 29
59	2016	11	14~ 15	就業時間中、治具を取りに治具置場まで歩いていたら、生産課解体場を通過している際に、パレットの積み上げ作業により大きな音があり、右耳を負傷した。	45	90	379	50 ~ 99
60	2016	10	13~ 14	4tトラックの荷台を清掃後荷台から降りようとした際に足を踏み外し、地面に落ちた。その時に左腕と左腰を強打した。	67	1	221	10 ~ 29
61	2016	10	15~ 16	アリゲーターシャーに材料を投入し切断作業をしたところ、長い材料が含まれていたため、機械を停止しないままの状態をかぎ棒を使わず右手で押し込もうとした。機械の押さえが降りてきて右手3本をはさまれた。	54	7	156	10 ~ 29
62	2016	10	15~ 16	取引先にヒアブ車で木クズの回収に行った時、荷台に積んだ、木クズが少しハミ出していたので荷台に乗り、手で押しこんだ時、木クズがはねあがりその反動でバランスをくずし荷台から落ち両足かかとで着地したが、その衝撃で両足を打ち負傷した。	35	1	221	10 ~ 29
63	2016	10	14~	構内において、鋳桁矯正機を使って鋳桁フランジの歪み矯正をしていた際、フランジにローラーの押し傷がついていないか確	47	7	159	10 ~





80	2016	4	13～ 14	解体作業場において、スクラップの機械を解体していたところ、機械のボルトを外しながら部品を解体していた際、急に部品が外れ、高さ30cmくらいから左足に落下した。	53	6	521	10 ～ 29
81	2016	4	8～9	工場建屋内にて、鉄屑の解体作業中、ガス切断作業をしている際、飛び散ったガスの火が自身の衣服の首筋口から中のポロシャツに燃え移り、顔、前頸部、左手などを負傷した。	38	11	331	30 ～ 49
82	2016	4	15～ 16	重機を使い鉄骨の切断作業中、鉄骨カッター一部分から異音がしたため作業を中断し鉄骨カッターにグリスを差していた。一方近くでマグネット重機を使い鉄スクラップの仕分け作業をしていた者がいたが、仕分けした鉄スクラップを鉄屑置場に置こうとしたところ、当該鉄スクラップが滑り、グリス作業をしていた被災者の左足に当たり負傷した。	44	6	212	1～ 9
83	2016	3	9～ 10	粉塵の箱から袋を取り出す際に、足場の悪い所で作業していた為、足を滑らせてしまいよろめいた際に、粉塵の箱に強打した。	62	3	611	50 ～ 99
84	2016	3	14～ 15	構内に於いて、鋼材の廃材を片付ける為、構内を移動中、地面に置いてあったH鋼につまずき転倒し、近くにあったバックフォアのキャタピラ部に左脇腹をぶつけ、肋骨骨折した。	62	3	417	30 ～ 49
85	2016	2	17～ 18	照明を点灯するため歩行中、土間の水溜りで足が滑って転倒した。	23	2	417	100 ～ 299
86	2016	2	14～ 15	工場内を歩行中に躓き転倒した際、左膝を強打し、骨折した。	47	2	417	10 ～ 29
87	2016	2	8～9	被災者は600Aスリッターで作業をしていた。自らプッシャーの移動ボタンを押した直後に他の者に別の故障箇所の場所を伝えようとライン内に立ち入ったが、身体がプッシャーの進路上にあった為、プッシャーと減速機の間挟まれ被災した。	39	7	169	50 ～ 99

88	2016	2	15～ 16	工場内に於いて、床上天井式クレーンを使用し、鉄板移動をリモコンで操作作業中、台木がずれていたため左手で直そうとしたところ、鉄板が降下してきた為、左手を引いたが間に合わず台木と鉄板の間に左手示指が挟まり負傷した。	36	7	211	1～ 9
89	2016	2	18～ 19	工場内作業場にて組立作業中に作業台より降りた際にコンクリート床面に落ちていた円形マグネットを踏みつけ、右足甲部を痛めた。	40	3	416	1～ 9
90	2016	2	13～ 14	大型スリッター作業場でカッタースタンド本体をラインから移動しようとし、操作パネルにて「移動」を行い、本体の移動が始まった際、カッタースタンド本体に置いていた工具が振動で脇に落ち、拾いに行ってしまった為、右足をカッタースタンド本体の車輪にひかれてしまった。	35	7	159	10 ～ 29
91	2016	2	15～ 16	重機アタッチメントの肉盛り溶接中に作業服に引火した。	36	11	332	10 ～ 29
92	2016	1	16～ 17	金属スクラップ積込作業中に、被災者が自ら高さ2.4mのスクラップつかみ機キャビン横の踊り場に立ち、無線で天井クレーンを操作し、被災者と天井クレーン先端のマグネットが同じ高さとなる状況下で、クレーンのマグネットを注視せず、被災者自身の方向にクレーン操作を行ったため、スクラップつかみ機のキャビンと質量約3tのマグネットの間に頭部をはさまれた。	40	6	211	10 ～ 29
93	2016	1	17～ 18	スリットコイル置場にて、ウォールクレーンで吊り上げて移動してきたスリットコイルを、元々置いてあったスリットコイルに、かまし物を挟んで立て掛けようとスリットコイルを倒した直後、左手で持っていたかまし物が下に落ち、人差し指と中指がスリットコイルの間に挟まれ、被災した。	32	7	211	50 ～ 99
			10～	走行中、カーブを曲がりきれず、歩道の縁石に乗り上げ横転し				30

94	2016	1	11	た。その際車外に投げ出された。	45	17	221	～ 49
95	2015	12	14～ 15	置場でリーダー組立作業中に、リーダーから降りる途中に、高所より飛び降りて着地に失敗して、左足を負傷した。	21	1	921	10 ～ 29
96	2015	11	10～ 11	倉庫にて、左手に切断された平鋼の品物を持ち、右手にサンダーを持って、切断面のバリ取りを行っていたところ、左手前に積んであった品物が倒れてきて、左肘に当たり、その勢いで左手が右手のサンダーに近づき、左手の親指つけ根がサンダーに接触し、負傷した。	35	8	153	10 ～ 29
97	2015	11	18～ 19	クレーン作業をしているときに、吊り上げた荷が振れ、荷と在庫品の間で右足を挟まれ、骨折した。	53	7	211	50 ～ 99
98	2015	10	15～ 16	車両荷台に載せていたタンク（スクラップ）の上に上がって掛けていたフックを外そうとしていた時に、30cm×30cm程の開口部があり、それに左足がハマリその時右手を着いて右足を打った。	36	1	391	10 ～ 29
99	2015	10	7～8	伸線作業を終了し、出来上がった製品（中間品）をフォークリフトで二倉庫へ運搬終了後、倉庫のシャッターを閉めようと、リフトに乗ったまま身を乗り出した状態で左側にあるスイッチを押そうとした、押した後ブレーキを踏んでいた足が離れ、前進した為、シャッター外側にある衝突防止用ポールとリフトに挟まれた。	31	7	222	300 ～ 499
100	2015	10	11～ 12	冷却床取出し作業にて、テーパ平鋼の剪断作業中、定寸機当板が下りないのを発見し現地へ処理に向かった。現地では当板アタッチメントの取付ボルトが片方外れてテーブルに支えていた為近くにあったパイプで支えていたアタッチメントを突いたところ支えが外れ、パイプと定寸機架台の間で左手を挟んだ。	38	7	159	50 ～ 99

---

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.html](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html)(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例（-2017年）](#)に戻る。